

『当駅始発』 作：ポチ子

今日も仕事だ。

行かなくちゃならない。

朝起きて、嫌で嫌で仕方ないのに、

座れるように、家を早めに出て、

当駅始発の電車を待つ列に並ぶ。

そんな自分が嫌になった。

電車に乗って、乗り換えの駅が近づいてきたから、

エスカレーターの近くのドアに移動しよう。

ここで降りなければ、

降りて、逆方向の電車に乗ってしまえば、

怖い事なんかなくなるのに。

なのに、その選択がひどく恐ろしく感じる。

今日も嫌味を言われて、

先輩に怒られて、

ミスをして。

きっと良いことなんかない。

でもそれは、

死ぬことより怖いことではないし、

お金が無くなって、

生活出来なくなる恐怖には勝らない。

だから、私は今日もこちらを選ぶ。

とても怖いけれど、

生きていると、それより怖い事が多すぎる。

酷く恐ろしい、

それが毎日なのだ。

— 終わり —